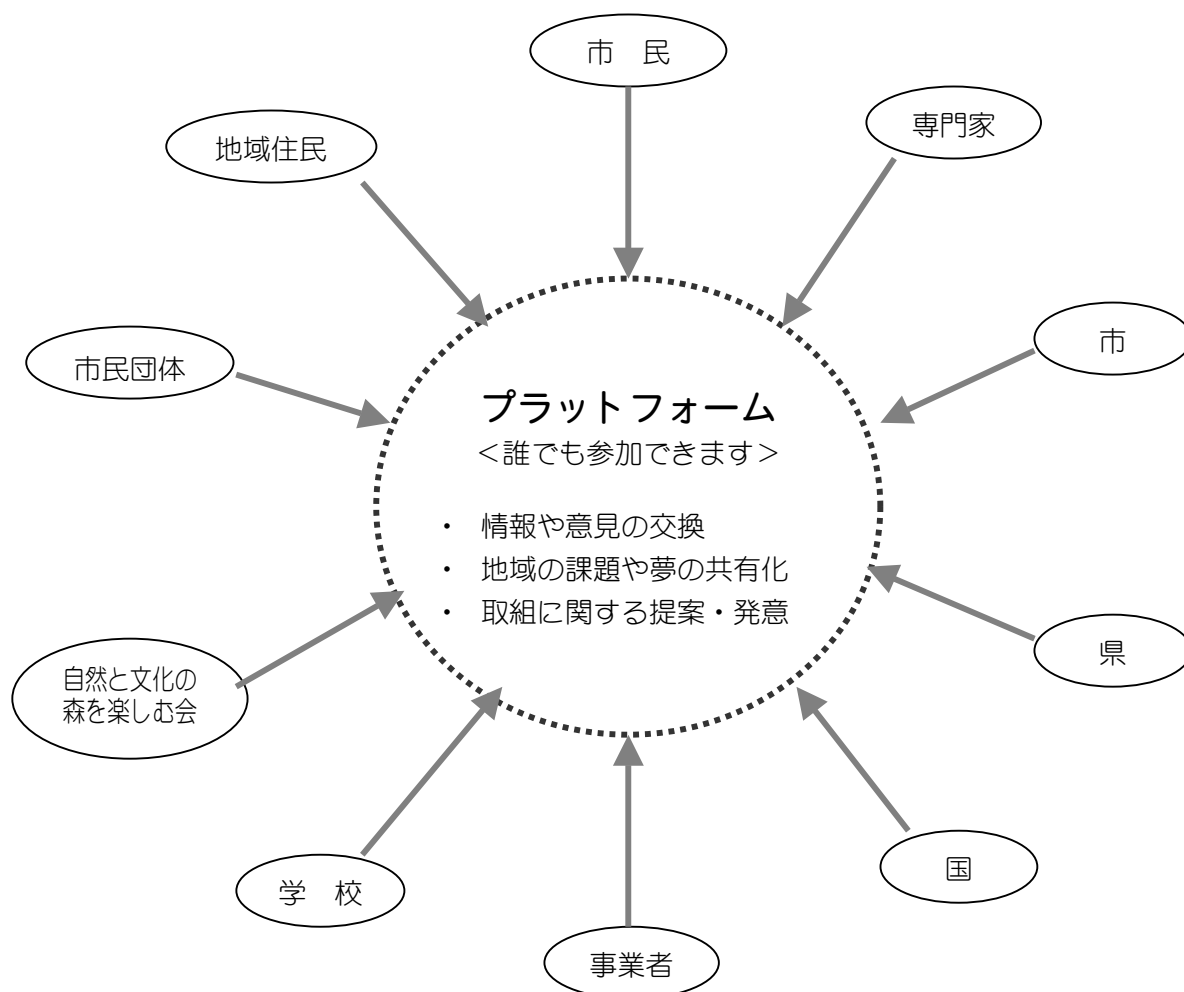


## 4. 構想の進め方

「プラットフォーム」を設け、話し合い、進めていきます

- 地域資源の価値の共有化を深め、取組への合意形成や参加者の拡大を進めるため、関係者が構想に関係する課題や夢を議論し、内容を深める場として「プラットフォーム」を継続して設置します。
- プラットフォームは、市民、地域住民、市民団体、事業者、専門家、行政など多様な主体からなりますが、必要に応じてメンバーは変化します。またメンバーでなくても誰もが参加できる、公開型で運営されます。
- プラットフォームの役割は、情報や意見交換をする中で、地域の課題や夢を共有するとともに、取組に関する提案等を行う場です。なお、具体的な取組の検討や実施に当たっては、取組に応じた実施体制を整備することになります。



**実験的な取組を繰り返し、熟度に応じて取組内容をレベルアップします**

- 地域への浸透、市民へのPR、行政の取組ともにまだ緒についたばかりの段階であることから、現段階では構想の細部を固定するのではなく、取組の熟度、市民の参加度合いにあわせて、取組内容をレベルアップしていきます。
- 推進段階を初動期、成長期、成熟期といったステップとして捉え、下の図のような「らせん型」で充実させていくイメージで進めます。
- 市民や事業者、行政、プラットフォーム等による発意に基づいたモデル的な取組を行い、その成果を検証した上で、取組内容や体制をよりよい方向へ改善し、次の段階へと発展させていく「実験的な手法」を取り入れます。
- これまで構想の実践を先導する役割を果たしてきた「自然と文化の森を楽しむ会」のさらなる発展を支援するとともに、同会の活動と連携して推進します。

